

バクー案内

2016 年 2 月

在アゼルバイジャン日本国大使館

目次

○ 概要		P 3
○ 当館休館日		
○ 一般案内	1. 気候	P 4-
	2. 言語	
	3. 宗教	
	4. 両替	
	5. 郵便	
	6. インターネット	
	7. 公共交通機関	
	8. 国際電話	
	9. チップ	
	10. 水	
	11. 電圧	
	12. 航空便案内	
○ 観光案内		P 8
○ アゼルバイジャン料理		P 19
○ アゼルバイジャンの著名人・小話		P 20
○ ホテル案内		P 22-
○ レストラン案内		P 23-
○ お土産案内		P 25-
○ 注意事項		P 26

概要

- 正式国名 アゼルバイジャン共和国
(人口 969 万人, 2015 年 11 月時点)
- 国土面積 86,600 平方キロメートル(北海道とほぼ同じ)
- 首都 バクー
- 主要民族 (2015 年) アゼルバイジャン人(91.6%)
レズギン人(2.0%), アルメニア人(1.3%)
ロシア人(1.3%), タリシュ人(1.3%)等
- 宗教 イスラム教(シーア派が多数)
- 通貨 アゼルバイジャン・マナト(AZN)
- 日本との時差 -5 時間(サマータイム時-4 時間)
※サマータイムは例年 3 月最終日曜から 10 月最終日曜日まで

平成 28 年 在アゼルバイジャン日本国大使館の休館日

1 月 1 日(金)	新年
1 月 20 日(水)	全国民服喪の日
3 月 8 日(火)	国際婦人の日
3 月 21 日(月)	ノヴルズ祭
3 月 22 日(火)	ノヴルズ祭
3 月 23 日(水)	ノヴルズ祭
3 月 24 日(木)	ノヴルズ祭
5 月 9 日(木)	戦勝記念日
5 月 30 日(月)	振替休日(共和国記念日)
6 月 15 日(水)	国民解放記念日
6 月 27 日(月)	振替休日(国軍記念日)
7 月 6 日(水)	断食祭
7 月 7 日(木)	断食祭
9 月 12 日(月)	犠牲祭
9 月 13 日(火)	犠牲祭
11 月 9 日(水)	国旗の日
12 月 29 日(木)	行政機関の休日(日本の休日)
12 月 30 日(金)	行政機関の休日(日本の休日)

合計 18 日

一般案内

●アゼルバイジャン概要

4 世紀頃キリスト教が導入されたが、7 世紀にアラブの侵略に遇い、イスラム教への改宗が進んだ。13 世紀頃、トルコ系民族の中央アジアからの移住により、現在のアゼルバイジャンの原型が形成された。16 世紀以降ペルシャの支配下に入るが、1828 年、ロシア帝国とペルシャの間でアゼルバイジャンを北部（現在のアゼルバイジャン）と南部（現在のイラン北部）に分割する国境線が決定され、ロシアの支配下に入った。ロシア革命後、一時的に独立したが、1920 年にソビエト政権樹立。ソ連崩壊後の 1991 年に再び独立し、現アゼルバイジャン共和国となった。

●バクー概要

首都バクーはペルシア語で「風の街」を意味し、現在はアゼルバイジャン共和国の首都として人口 200 万人以上の大都市を形成している。街の歴史は古く、シルヴァン王朝（9 世紀～16 世紀）の初期には港町として知られ、その後期には都として栄えた。

19 世紀後半から 20 世紀初頭にかけて、バクーは帝政ロシアの支配のもと、世界の原油産出量の半分以上を誇る一大油田地帯となり、人と金が集集中し、世界的な大都市へと急速に発展していった。そのため、街は国際的な性格を強く帯び、現在でも街並みは他の地方都市とはまったく異なる雰囲気をもっている。

油田はソ連時代末期に枯渇したと思われていたが、近年、カスピ海バクー沖に新たな油田が発見され再び石油の街としての活気を見せている。

1. 気候

1 年を通じて強い風の吹く日が多く、気候はその風に大きく左右される。夏の気温は 40℃を超えることもあるが、日本に比べると湿度が低く、前述の風もあって比較的過ごしやすい。一方、冬の気温は 0～10 度程度ではあるが、強い風の吹く日は体感温度がかなり低くなる。気候は概ね穏やかで、春秋は短いが四季の区別はある。

2. 言語

公用語はアゼルバイジャン語（テュルク語系）であるが、ソ連の構成国であったこともありロシア語を話す人も多く、都市部ではロシア語がよく通じる。また、アゼルバイジャン語に近いトルコ語もある程度通じる。

3. 宗教

宗教はイスラム教が 95%と多いが（うちシーア派：スンニー派＝60～65%：35～40%）が、ソ連時代を経験しているためかイスラム色は薄く、酒類も街中で広く販売されており、レストランでの飲酒も問題ない。また、モスク等の限られた場所を除いて、女性の服装も自由である。

4. 両替

米ドル、ユーロ等の主要通貨の両替は、銀行及びバクー市内に多数設けられている両替所、ホテル等で可能である。日本円の両替は一部の銀行、両替所に限られるので注意が必要。(International Bank of Azerbaijan, Hyatt ホテル内の両替所では円の両替可)また最近では、数は限られるものの ATM が市内各所に設置されており、クレジットカードによるキャッシングも可能である。

【換金レート】

1 米ドルを換金	1.57 マナト
----------	----------

1 マナト=100 ガピック 平成 28 年 2 月

5. 郵便

切手は市内数ヶ所にある郵便局で購入可能。郵便ポストは郵便局内にのみ設置されている。日本までの送料は、ハガキが 60 ガピック、封書は 70 ガピック～重量によって異なる。ただし一般郵便は日数を要し、紛失などの可能性もあるので、大切なものは高額でも EMS や DHL を利用して送ることが望ましい。

6. インターネット

海外仕様のモデムが内蔵されているパソコンであれば、使用可能である。無線 LAN を提供するホテル・飲食店もあるが、回線速度はまだ十分とは言えない。

7. 公共交通機関

バス

行き先及び番号を確認して乗車。ルート上であればどこでも乗下車可能。下車する際は降りる旨を伝え止めてもらい、料金を運転手又は集金係に支払う。英語は通じない。また、高額紙幣で支払おうとする場合は釣り銭がないと言われることがあるので、硬貨を多めに準備する必要がある。市内を走るバスは一回の利用につき 20 ガピック(近々、路線により値上げの可能性がある)。なお、行き先等の表示はアゼルバイジャン語のみ。バス停にバスの運行状況、行き先を案内する端末が設置されている。一部の路線では、地下鉄との共通カードでの支払いに切り替わりつつある。

地下鉄

駅の入口には警官がおり、手荷物検査をされる場合がある。まず、券売所(カッサ)にて乗車専用カード(2 マナト)を購入する。こちらは、バス乗車用のものと共通になっている。担当者に回数を告げ、カードに乗車回数分をチャージしてもらう。又は、改札口付近に設置されている端末を利用しチャージする。

乗車料金は一回の利用につき 20 ガピック。駅構内の案内表示は、以前はアゼルバイジャン語のみであったが、最近では英語表示及びアナウンスも見受けられる。

タクシー

アゼルバイジャンでは、メーター制タクシーとメーターがない、いわゆる白タクがあ

る。

メーター制タクシーは「ロンドンタクシー TX4」タイプで、二種類ある。一つ目は紫色のタクシーで、利用料金1AZN の他、10 キロまでは 0.7 マナト／キロ、10～20 キロは 0.5 マナト／キロ、20 キロ以上は 0.2 マナト／キロで利用可能。二つ目は 2015 年秋に導入されたタクシーで、見た目は上記の紫色のタクシーと殆ど同じだが、黄色と黒の格子模様が入っているの、そちらから見分けることが出来る。こちらの利用料金は 3AZN、3～10 キロまでは 0.7 マナト／キロ、10 キロ以上は 0.4 マナト／キロとなっている。

白タクについては、値段はタクシー運転手との乗車前の交渉次第となる。目安として市内での利用は昼間 4～6 マナト(2.5～3.8 米ドル程度)、夜間 5～10 マナト(3.1～6.2 米ドル程度)である。外国人と見ればそれ以上請求してくる運転手もいるが、払う必要はない。

運転手には英語が通じないことが多いので、以下のアゼルバイジャン語の数字を覚えておくに役に立つ。バス同様、高額紙幣で支払おうとする場合は釣り銭がないと言われることがあるので、小額紙幣を多めに準備する必要がある。

1=ビル 2=イキ 3=ウチ 4=ドルト 5=ベシュ
6=アルトゥ 7=イェディ 8=セッキズ 9=ドグズ
10=オン 15=オンベシュ

8. 国際電話

国際電話は基本的に電話局と外国人のよく利用するホテルで可能。「国際電話識別番号(00)」、「相手国番号」、「最初の 0 を除いた地域番号」、「相手先の電話番号」の順にダイヤルする。(ホテルからの場合、最初に外線発信番号の有無を確認する。)

例) 日本への国際電話

00 + 81(日本の国番号) + 最初の 0 を除いた相手先の電話番号
**東京(03)1234-5678 へかける場合 → 00+81+3-1234-5678

国外からアゼルバイジャン国内への国際電話は、「国際電話識別番号(00)」、「アゼルバイジャンの国番号(994)」、「最初の 0 を除いた地域番号」、「相手先電話番号」の順にダイヤル。

アゼルバイジャンから日本への通話料金は、固定電話からでも携帯電話からでも約 0.2 米ドル/分程。

9. チップ

本来アゼルバイジャンにチップの習慣はないが、石油資源開発に伴う欧米人の流入以降、外国人がチップを支払う習慣が根付いてきた。強制ではないが、支払う場合のチップの相場はホテルのポーターで 1 マナト、レストランでは総計の 5%～10%程度。

10. 水

水道水を飲むことは避け、ミネラルウォーターを買う。シャワーや歯磨きには水道水で問題ない。

11. 電圧

220 ボルト, 50 ヘルツ(ヨーロッパと同様で C タイプのプラグを使用)

12. 航空便案内

2016 年 1 月現在、ヘイダル・アリエフ国際空港へ乗り入れている主な航空会社、発着都市は以下の通り。なお、アゼルバイジャン航空, オーストリア航空, ブリティッシュエアウェイズ航空, ルフトハンザ航空のチェックインの際には, 空港で別途パスポート確認手続きを求められる。(本確認手続きはチェックインの前に行う)

【アゼルバイジャン航空】：

モスクワ, サンクトペテルブルグ, キエフ, ウルムチ, トビリシ, アンカラ, イスタンブール, ドバイ, テヘラン, ロンドン, パリ, プラハ, ミラノ, 北京等

【アエロフロートロシア航空】：モスクワ

【ウズベキスタン航空】：タシケント

【トルコ航空】：イスタンブール

【ブリティッシュエアウェイズ航空】：ロンドン

【ルフトハンザドイツ航空】：フランクフルト, アシガバード

【カタール航空】：ドーハ, トビリシ

観光案内

[市内のみどころ]

バクーの街は、城壁で囲まれたイチェリ・シェヘルと呼ばれるシルヴァン王朝時代の街(旧市街)を帝政ロシア時代の街が取り囲み、さらにそれをソ連時代の建物が取り囲むようにして造られている。城壁に沿うように走るイスティグラリエット通りには市庁舎をはじめ主だった官庁や銀行等が建ち並び、噴水広場から東へと伸びるメインストリートのニザミ通りはいつも人で混み合い、日常品やブランド品など様々な商店が軒を連ねている。なお、「城砦都市バクー、乙女の塔及びシルヴァン・シャー宮殿」は、2000年に世界文化遺産に登録されている。

●旧市街(アゼル語:イチェリ・シェヘル / İçəri Şəhər)

イチェリ・シェヘルとはアゼルバイジャン語で「内城」を意味し、城壁に囲まれたこの区域の内側には、干し煉瓦作りの建物や入り組んだ通りなど、この地域の都市の伝統的な街並みが保存されている。旧市街内には、世界遺産に登録された乙女の塔及びシルバン・シャー宮殿、ハمام(浴場)、モスク、キャラバンサライ(隊商宿)等があり、現在ではキャラバンサライの一部を改装したレストラン、ホテル、土産物屋も建ち並んでいる。



○乙女の塔

(アゼル語:グズ・ガラスウ / Qız Qalası)

旧市街内の、海岸に面した通り沿いに位置する乙女の塔はバクーのシンボルで、高さは30m。この場所に拝火教寺院として最初に塔が建てられたのは前5世紀と言われている。現在の塔は要塞として12世紀に建て直されたものであり、塔の外壁は4~5mの厚みがある。

「乙女の塔」と訳される、グズ・ガラスウの名前の由来は、かつてバクーを治めていたモンゴル人の王が自分の娘に言い寄り、悲しんだ娘がこの塔からカスピ海に身を投げたなど諸説あるが、城壁の不落を祈念し、「処女の城」という意味を込めて、この名前をつけたという説が有力である。

中は小さな博物館になっており、この地域の歴史がわかるようになっている。この塔の屋上からの眺めは一見の価値あり。券売所は入り口前の広場にある。

入場料:2 マナト カメラ:2 マナト

開館時間: 11:00~18:00

○ シルヴァン・シャーの宮殿

(アゼル語:シルヴァンシャー・サライ / Şirvanşahlar Sarayı Kompleksi)



16 世紀までこの地を支配したシルヴァン・シャー朝の王宮であり、旧市街の一番の見所。

シルヴァン・シャー一族はそれまで拠点としていたシャマハという地が1191年の大地震で破壊されたことによりバクーへ移り、モンゴル来襲とティムール帝国支配を経た後、当地で繁栄した一族である。

この王宮は、最盛期の王シルヴァン・シャー・ハリルラ1世によって15世紀に建てられたものであり、宮殿、丸屋根のモスク、ディワンハーネ(謁見の間)、王族の霊廟、聖者の霊廟、浴場跡、マドラサ(学校)跡などが組み合わされ、ひとつの王宮を形づくっている。それぞれ造られた年代は微妙に違っているが、全体の均整をこわすことなく調和が保たれている。

当王宮は一時廃墟となっていたが、1920年に改修され、宮殿部分は現在博物館になっている。宮殿は至ってシンプルで、壁画もなければモザイクもない土色の宮殿であるのが特徴である。

入場料:2 マナト

開館時間: 10:00~19:00(4月~10月), 10:00~18:00(11月~3月)

シルヴァン・シャー宮殿内地図



- ① 宮殿：
現在は博物館となっている宮殿部分。宮殿の中には、ハーレムや応接の間があり、アゼルバイジャンの楽器や民族衣装などが展示されている。宮殿の外壁には銃痕が残っているが、これは旧ソ連時代に新しく開発された拳銃のテスト射撃のためにこの壁が使われた跡である。
- ② ディワン・ハーネ(謁見の間)：
シルヴァン・シャー王族の謁見に使われた建物。
- ③ セイッド・イエフヤー・バクーヴィー廟：
この廟には、哲学者であるセイッド・イエフヤー・バクーヴィーが葬られている。
- ④ キュー・ギュバ・モスク跡：
モスク兼マドラサ(学校)はシルヴァン・シャー王朝のキュー・ギュバ・ファルハザード2世の治世に建立され、王の子供たちが王宮お付きの学者からここで学んだと推測されている。
- ⑤ ムラッドの門
- ⑥ シャー・モスクとミナレット：
1441年に建てられたモスクで、男性用と女性用の祈りの間がある。
- ⑦ シルヴァン・シャー家の霊廟：
キュー・ギュバ・ハリルラ王の母親と6歳で夭折した息子のために建てられた霊廟。
- ⑧ 王族のハمام跡：
1438年に作られた浴場で、26の部屋から成り立っている。

○ 金曜モスク(アゼル語:Cümə Məscidi)

中世のアゼルバイジャンの、社会的、政治的、文化的な生活の中で重要な役割を果たしたモスク。かつて、州裁判所はここに位置し、全ての政令はここから発令されていたという。

○ ムハンマド・モスク(アゼル語:Məhəmməd Məscidi)

このモスクに付設されたスヌフ・ガラ(ミナレット)は、城壁内で最古のもの。ソ連時代は全て閉鎖されていたが、金曜モスクなど他のモスクと共に、近年活動を再開した。

○ ムルターニー・キャラバンサライ(アゼル語:Multanı Karvansarayı)

キャラバンサライとは隊商宿のことであり、ムルタン(現在はパキスタン領)方面からの隊商が用いたことから、その名がついている。かつての中央・南アジアとの密接な関係を物語る。一部はレストラン等に改装。

○ シャマハ門(アゼル語:Şamaxı Darvazası)

かつて隊商達を通った、12～14世紀頃に建造された石造の門。旧市街を囲む城壁の一部をなしており、門の上には2匹のライオン(太陽のシンボル)と牛(月のシンボル)が彫られている。





○ ハジンスキー邸(Hacinskinin Evi)

上記乙女の塔の隣にある、1912 年に建築されたゴシック様式のマンション。19 世紀前半のオイルブーム時にはバクー市内に多くの豪華な邸宅が建てられたが、そのうちの一つがこのハジンスキー邸である。この邸宅には 1944 年、仏レジスタンス運動のリーダー、ド・ゴールがスターリンとの会談のためモスクワへ向かう途中に滞在した逸話がある。現在、邸宅はマンションとして使用されており、内部を見学することはできない。

イチェリ・シェヘル(バクー旧市街)地図



●絨毯と民族工芸博物館(アゼル語: Azərbaycan Respublikası
Mədəniyyət və Turizm Nazirliyinin Muzey Mərkəzi)



旧レーニン博物館を、1991年の独立後に絨毯と民族工芸博物館に改造したもの。ギリシャ神殿のようなコロネードのある建物の内部には、国内各地、またイランの北部地方やロシアのダゲスタン地方から集められた絨毯が展示されている。アゼルバイジャン絨毯の典型的な図柄であるキルル文字を織り込んだものや政治家や著名人の肖像を織り込んだものなど興味深い。この

旧レーニン博物館は、小規模ながらアゼルバイジャンの歴史を示す古い写真が集められた独立博物館と、劇場俳優の衣装や写真が展示された劇場博物館も設けられている。

入場料: 7 マナト

開館時間: 10:00~18:00 (月曜休館)

住所: 123a Neftchilyar Ave. 電話: 012-498-69-72 / 598- 44-79

●絨毯博物館(アゼル語: Azərbaycan Dövlət Xalça Muzeyi)



2014 年 8 月に新装オープンした絨毯博物館。ユニークな形をしたこの建物は、オーストリア人建築家フランツ・ヤンツ氏によってデザインされた。

この博物館にはクバ、バクー、シルヴァン、カザフ、カラバフとタブリーズ絨毯などの代表的な絨毯や現代のアゼルバイジャン・アートなど、約 10,000 枚の絨毯が展示されている。また、この博物館では実際に絨毯を織っているところも見ることが出来る。

アゼルバイジャンの絨毯文化は 2010 年に人類の無形文化遺産に登録されており、独特の模様と手触りは非常に情緒深く、1 本 1 本の縫い目にこだわった、耐久性高く質の高い絨毯として有名。

入場料: 7 マナト 写真: 10 マナト

開館時間: 10:00~20:00 (休館日なし)

住所: Mikayil Useynov 28 電話: 012-497-20-57

●歴史博物館(アゼル語: Milli Azərbaycan Tarix Muzeyi)

19 世紀末の石油成金、ゼイナラブディン・タギエフの旧宅で、膨大な予算を費やして 1902 年に完成した。非常に規模が大きい博物館で、歴史資料を 25 万点以上収めている。

1 階は考古学、歴史学的資料の展示に充てられている。先史時代からの出土品や装飾品、様々な時代のコインなどが豊富。アゼルバイジャン南部で発掘された 35 年前とされる人のあごの骨なども展示されている。2 階はロシア占領以後に関する展示で、油田開発の歴史などの展示がある。



また、隣接しているタギエフ邸記念館の最大の見ものは、王宮のような 2 階部分の内装装飾で、贅を尽くした「Oriental hall」を中心にタギエフの書斎、寝室、ビリヤード用の部屋など豪華絢爛な部屋が並んでいる。

入場料:5 マナト(タギエフ邸記念館と併せて) 写真:2 マナト

開館時間:10:00~18:00(日曜休館)

住所: 4 Hadji Zeynalabdin Taghiyev Street 電話: 012-493-23-87

●ニザミ記念文学博物館

(アゼル語:Nizami Gəncəvi adına Milli Azərbaycan Ədəbiyyat Muzeyi)



1860 年建設の旧ホテル・メトロポールの建物を利用した博物館。西側の彫像群はアゼルバイジャン文学史の偉人たち。その内の一人、M.アフンドフ(1812-78)などが19世紀にアゼルバイジャン語の口語での近代文学を創始するまで、文芸の世界ではペルシャ語が優勢だった。アゼルバイジャンを誇る文学者であるニザーミー(1141-1209)も、その作品は全てペルシャ語。そうした歴史にまつわる古写本や、文学作品を題材にした細密画などを展示している。

入場料:5 マナト 開館時間:11:30~17:00(日曜休館)

住所: 53 Istiglaliyyat str 電話: 012-492-18-64

●国立美術館(アゼル語: Azərbaycan Milli İncəsənət Muzeyi)



アゼルバイジャン国立博物館の美術部門が1936年に創立され、1937年に国立美術館として開館。現在1万2千点に及ぶ美術作品、絵画などが展示されており、美術館内では42部屋にわたって展示されている。建物自体は、19世紀末に建てられた石油富豪の元邸宅である。

美術館にはアゼルバイジャンに関する作品のみならず、ヨーロッパ、ロシア、トルコ、イラン、日本、中国などの国々の作品も展示されている。

入場料:5 マナト 開館時間:10:00~18:00(月曜休館)

住所: Niyazi St., 9/11 電話番号: 012-492-57-11

●フィルハーモニー・ホール

(アゼル語: **Müslüm Maqomayev adına Azərbaycan Dövlət Filarmoniyası**)



国内外の音楽家による公演の他，外交団主催のコンサート等がしばしば行われるコンサートホール。料金は公演内容により異なるが，10米ドル前後が多い。

日本の鬼太鼓座のバクー公演も，このフィルハーモニーで行われたことがある。

住所： 10 Istiglaliyyat str. 電話： 012-497-29-05/497-36-09

●国立人形劇劇場

(アゼル語: **Abdulla Şaiq adına Azərbaycan Dövlət Kukla Teatrı**)



臨海公園に位置している。建物は1901年に石油で成功したムサ・ナギエフがポーランド人の建築家に造らせたもの。20世紀初めは大金持ち達の豪華な服の品評会が行われていた。人形劇場となったのは1994年からで，俳優の中にはフランスでの人形劇祭で受賞したものもあり，子供だけでなく，大人も楽しめる。アゼルバイジャン語とロシア語それぞれ演目があるが，日にちや時間は劇場にて事前に確認した方が望ましい。

住所： 10 Neftchilyar Ave 電話： 012-492-64-35/492-64-25

●オペラ・バレエ劇場

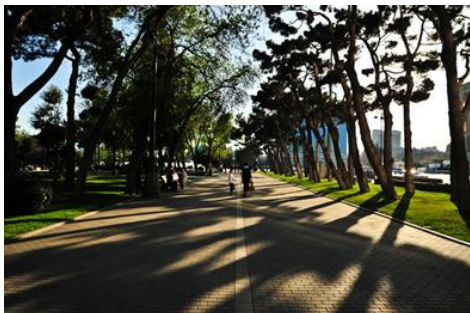
(アゼル語: **Azərbaycan Dövlət Akademik Opera və Balet Teatrı**)



歴史を感じさせる，重厚な造りの劇場。アゼルバイジャンと西欧の演目を中心とした，オペラ・バレエの公演が行われている。料金は公演内容によって異なるが，10～30 マナと日本に比べてお手頃。チケットは，劇場の横の建物内のカッサや街中のカッサで購入可能。

住所： 95, Nizami str. 電話： 012-493-16-51/493-31-88

●海岸公園(アゼル語:Dənizkənarı Milli Park)



カスピ海に沿って、弧を描くように続く公園。緑の多い絶好の散歩道で園内にはいくつものカフェやチャイハナ(喫茶店)の他、子どもたちのための遊園地もあり、市民の憩いの場となっている。公園沿いには、2010年にオープンしたショッピングセンター「パーク・ブルバール」がある。

レンタサイクルはアズネフチ広場から海岸公園を300mほど南下したところで借りられる(初乗り2マナト/時間、その後1マナト/時間)。

●殉教者の小路 (アゼル語:Şəhidlər Xiyabanı)



1990年1月20日のソ連軍の侵攻による犠牲者及び1991年～1994年のナゴルノ・カラバフ紛争犠牲者の追悼モニュメントと墓地がある。366つの墓標に刻まれた犠牲者の肖像の中には幼い少女のものも含まれ、この国の辿った悲しい歴史を感じさせられる。国旗が掲げられている入り口付近には花屋があり、墓標の前には献花が絶えない。丘の上に位置するこの場所は、バクー市街やカスピ海を一望することができる。

アズネフチ広場(海岸公園近く)とケーブルカーで行き来可能(無料。営業時間は10:00～22:00(13:00-14:00を除く / 月曜運休日)。

●中央市場 (アゼル語:タザ・バザール/Təzə Bazar)



野菜、ナッツ類、乳製品、肉類、茶葉などの食品を中心に、数多くの店が軒を連ねている。早朝から人が集まり、果物などの取り扱いも豊富。商品も新鮮で、スーパーなどに比べ価格も安価。お土産用キャビアもここで味見して購入することが出来る。ネジなどの細かな部品から食べ物、動物まで何でも揃う異国情緒あふれるバザール内は、見て回るだけで十分楽しめる。2007年に改装工事が終わり、小ざれいな外観になっている。

●カスピ海クルーズ

カスピ海側からみるバクーはひと味違う。海岸公園にあるショッピングセンター「パーク・ブルバール」前から「EuroVision 2012」が行われたクリスタルホール付近までの往復するコース。1回30分、3マナト。夏季限定。

●テレビ塔(Azeri TV Tower)

1996年に建てられたテレビ塔は、高さ310mであり、最上階がレストランになっている。当レストランは360°回転するため、お茶や食事を楽しみながら、バクーの街並みを一望することが出来る。

●フレイムタワーズ(Flame Towers)



れる。

総工費 350 億円をかけて 2012 年に完成したフレイム(炎)を形取った 3 つのビル群。ビルには Fairmont hotel, マンション, オフィスが入っている。アゼルバイジャンという国の名前は「火の国」という意味であり, この建物はこの国のシンボルである炎を形取っている。夜になると, 10000 枚の LED パネルが張られたこの建物がライトアップされ, 炎やアゼルバイジャンの国旗などが映し出される。

●ヘイダル・アリエフ・センター(アゼル語:Heydər Əliyev Mərkəzi)



当文化センターは, 2012 年に完成した施設で, 主に展覧会やコンサートなどの文化活動に使用されている。この建物の名前は, ヘイダル・アリエフ前大統領から名づけられた。この建築は, 2020 年東京オリンピックの新国立競技場設計案によって我が国でも有名になった, イラク出身の女性建築家ザハ・ハディッド氏によって設計され, この建物は, 上空から見るとヘイダル・アリエフ元大統領のサインの形になっているという。

バクー市内地図



[郊外のみどころ]

●ビビヘイバット・モスク(アゼル語: Bibiheybət məscidi)

バクー市内のシーア派モスク。13世紀にシルヴァン朝のファルフザドの命令で、イスラム教開祖・預言者ムハンマドの子孫であるウケイマ婦人のお墓の上に建てられた。

ウケイマ婦人は難病治癒の力をもっていたとの伝説があり、このモスクはイスラム圏



及びアゼルバイジャンの主要な聖所となっている。これまでに何度も破壊された歴史があり、1936年にはソ連のボリシェヴィキによって壊された過去がある。現在の建物は1994年にアリエフ元大統領の命令で改装された。

当モスク内には、非常に力のある聖人の墓があるため、隣国のイラン、トルコ、イラク、タジキスタン、パキスタンなどからも巡礼者が参詣する。フランスの有名な小説家アレクサンドル・デュマも当モスクを訪れている。

●拝火教寺院 (アゼル語: アテシュギヤフ / Atəşgah)



18世紀、この地に商人として住んでいたパルシーと呼ばれるインドのゾロアスター教徒によって建てられた寺院。かつては、この地域でも地表に沸く天然ガスが自然発火することがあり、火を崇めるゾロアスター教徒にしばしば聖地とみなされた。この寺院は、インド北部と現在のトルコ、シリア地方を結ぶルートの中継地として栄え、僧や信徒の往来があったことがわかっている。19世紀後半には既に宗教施設としての活動を停止し、観光地となった。ただ、今でもインドやイランで生活するゾロアスター教徒はこの地を聖地と見なし、時には小規模ながら礼拝に来るという。

この寺院は、「永遠の炎」を真ん中に据え、礼拝用の広場とその周りの石造りの僧房で囲んだ作りになっている。この僧房は現在は博物館となっており、写真や展示物で当時の拝火教陣の様子を垣間見ることが出来る。

この「永遠の炎」は、2015年に開催された欧州競技大会の聖火のトーチの火として使用された。

入場料: 2 マナト 写真: 2 マナト

開場時間: 10:30~17:00

●ゴブスタン（アゼル語：Qobustan）

バクーの南西へ約 60km のところに広がる石器時代からの遺産。こちらの文化的景観は 2007 年に世界文化遺産に登録された。

100 平方 km に渡って無数の洞窟が分布している。調査によれば 1 万年前からこの地には人が生活しており、彼らの生活の様子が無数に描かれた岩絵から窺い知ることができる。岩絵に描かれているのは、太古の人類や動物、戦い、宗教的な舞踏、闘牛、武装した漕ぎ手の乗る小舟、槍を携えた戦士、ラクダの隊商、太陽や星々など多彩である。また、中にはローマのポンペイウスがこの地へ遠征したとき、彼の部下の残した落書きもある。

当遺跡の入り口付近にあるベンチほどの大きさの石は、ガウルダシュと呼ばれるその反響性を利用した石の楽器があり、叩くとおもしろい音がする。

この遺跡に向かう途中に博物館があるため、ここで岩山遺跡一帯への入場券を購入する必要がある。この博物館では、ゴブスタンの歴史や岩絵の解釈について英語で展示説明がなされている。

また、ゴブスタンの遺跡から少し離れたところには、泥火山が存在する。地下から噴出する天然ガスにより泥が泡立ち、マグマがたぎっているように見える。

入場料：2 マナト(博物館と併せて) 開場時間：10:00～17:00



ゴブスタン遺跡



泥火山

●燃える丘

(アゼル語：ヤナル・ダグ／Yanar Dağ)

バクーの北 25 km, ビナガディン地区にあり、車で 30 分程度の距離。ヤナル・ダグとは燃える丘の意味で、石油採掘場近くにある小高い丘の地中から、天然ガスが地表の割れ目から噴出し、それが自然発火することで 2000 年もの間絶えることなく燃え続けていると言われている。

入場料 2 マナト



●ピンクの湖（アゼル語：マサズィル・ギュル／Masazır Gölü）



バクーの北、車で 30 分ほどの距離に位置する湖。この湖の水に含まれるヨード成分のため、湖面がピンク色のように見えることで有名。時間帯によっては紫色に見えたりもする。他の時間帯に比べ、早朝が一番ピンクに見えるという。季節や時間によって、ピンクに見えないこともある。

湖では塩の生産が盛んで、湖の周りにはたくさんの塩山がある。現在、柵で囲まれ、湖の近くには行けない。

バクー郊外地図



アゼルバイジャン料理

●主食

タンディールと呼ばれる釜の内側で焼くパンである。その他には薄い生地を焼いた、ラヴァシュといわれるパンもある。インドのナンと形状が似ている。よくそれに野菜や肉などを包み食べられている。

●ドウシュベレ

アゼル風小餃子の入ったブイヨンスープ。

●ドルマ

米や羊肉の挽肉をブドウの葉で包んだ料理。

●グタッパ

アゼルバイジャン風クレープ。よく食べられるのは、カボチャ、羊肉、香草入りのグタッパ。

●ドヴガ

ヨーグルト料理の一種。香菜や、お米などが入っているスープ。さっぱりした味である。冷たくして飲むことも温めてスープとして食べる人もいる。

●サラダ

アゼルバイジャンの前菜では、トマト、キュウリ、ネギ、香草などを切らずにかつド

レッシングなしでそのまま食べることが多い。アゼルバイジャンの野菜は美味しいため、野菜本来の味が引き立つ。

- ドネル

羊肉の薄切り肉を重ねて炙った部分を表面から削り、トマトソースやマヨネーズを塗ったパンにキュウリ、トマト、タマネギや香菜などを一緒に挟んで食べる。

- ケバブ

羊肉、鶏肉、トマト、茄子、ジャガイモ、ピーマンを塩と胡椒で味付けして炭火で焼いたもの。一般的な料理。

- プロフ

羊肉や松の実、野菜、栗などの炊き込みご飯。

- サージ

肉や野菜の鍋焼き料理。

- パフラヴァ

菱形のお菓子。生地を何層にも重ねていき作られる。クルミ、アーモンド、ヘーゼルナッツなどをはさみ、焼き上げてから濃い大量のシロップをかけられる。

- チャイ

いわゆる紅茶。食事の最後には、チャイを飲む習慣がある。

アゼルバイジャンの著名人・小話

- アゼルバイジャン前大統領 ヘイダル・アリエフ

アゼルバイジャン前大統領(1993～2003)で、同国の国父的存在。現大統領のイルハム・アリエフは長男。ソ連時代、アゼル共産党第一書記、アゼル KGB 議長、ソ連邦政治局員等を務めた。抜群の記憶力、洞察力、カリスマ性を誇った。米国オハイオ州の病院で死去。ヘイダル・アリエフの名のついた建物や通り、また彼の写真は街中に多く目にすることが出来、彼の存在の大きさを見て取ることが出来る。



- 日本とも関わりをもつ、ソ連のスパイ ゾルゲ

1895 年、バクーで石油技師として働いていたドイツ人の父とロシア人の母との間に生まれたゾルゲは、3 歳でドイツに移住するまで同地で過ごした。1933 年、独「フランクフルター・ツァイトウング」紙特派員として来日し、日本国内で諜報活動を行うが、1941 年治安維持法等により逮捕されて巣鴨刑務所に拘留され、1944 年に死刑に処された。東京・多磨霊園に葬られている。



●スターリンが投獄されていた監獄

バクーには、スターリンが投獄されていたバイロフ監獄がある。この監獄はもともとは 1820 年に兵舎として建てられた建物であったが、1888 年からは監獄として使用されることとなった。スターリンは、1908 年と 1910 年の二度に渡って投獄されているが、当監獄からの脱獄に成功した者は 1994 年までスターリンだけであった。2009 年に当監獄は取り壊され、現在この場所はレストラン(Mangal steak house)となっている。

●アゼルバイジャンにおける国際的な動き

経済発展に伴い、国際舞台での存在を高めつつあり、2011 年には初めて国連安保理非常任理事国(任期 2012-13 年)に選出され、2012 年には欧州歌謡祭「ユーロビジョン」をホスト国として成功裏に開催した。

また、2015 年 6 月には第 1 回欧州競技大会(通称:ヨーロッパ・オリンピック)がバクーで開催され、市内各地でスタジアムなど競技設備の整備された。更に 2016 年にはF1 レース、2017 年にはイスラム諸国競技大会と、様々な国際イベントが予定されている。最近では国際会議も数多く実施されており、2015 年 5 月にはアジア開発銀行(ADB)総会が開催された。

●豊富な石油・ガス資源

アゼルバイジャンの石油開発の歴史は古く、1546 年に世界最古の石油井による採掘が行われた。1902 年には、バクー沖のカスピ海上で世界初の洋上石油生産が開始された。外国資本によるバクーの石油生産は、20 世紀初頭には世界の全生産量の半分を占めていたが、第二次大戦後、ソ連の石油生産の中心はウラル、西シベリアへ移った。

ソ連崩壊後、カスピ海沖の石油開発が進み、石油開発がアゼル経済活況の柱となっている。日本企業もカスピ海の ACG 油田開発に参画している。

また、天然ガスについては、現在カスピ海沖のシャフ・デニズ・ガス田で生産されるガスを「トルコ横断パイプライン(TANAP)」及び「アドリア海横断パイプライン(TAP)」を経由して欧州に輸送する所謂「南回廊」と呼ばれる壮大なプロジェクトが進行中であり、2018 年の生産開始を目指している。

●原油風呂で皮膚病や神経痛もスッキリ？

アゼルバイジャンには、ナフタランと呼ばれる地方があり、そこでは皮膚病や神経痛が治る“奇跡の風呂”と呼ばれる原油のお風呂が産出されている。これは真っ黒で粘着性のあるドロドロとした原油から出来たお風呂であり、最近では日本のテレビ番組でも取り上げられている。この原油風呂は、バクー市内でも体験することが出来るが、入浴後はベッドリと身体に付いた原油を完全に取り除くことが難しいので、もし原油風呂に挑戦する場合は、汚れても良い下着や洋服を着用していくことが無難。



◎バクー市内で原油風呂が体験出来る場所

名前: Naftalan Sağlamlıq Mərkəzi

電話番号: 012-447-3766

場所: Baku, Sabail, M.Mushfig str. (Massiv) 1

●アゼルバイジャンは世界一が大好き？

国の大きさは世界 113 位のアゼルバイジャンだが、この国には世界一と言われるものが幾つか存在する。

- 1) 世界一高い国旗掲揚塔。こちらはカスピ海沿いのナショナル・フラッグ・スクウェアにある。この国旗掲揚塔の高さは 162m、国旗本体の大きさは縦 35m、横 70m、重さ 350kg で世界一高い国旗として世界にギネスに記録を残した。その後、タジキスタンに更に高い国旗掲揚塔が立てられたことにより、現時点では世界 2 位の地位を維持している。
- 2) 世界一大きいケンタッキーフライドチキンの店舗。この建物は、もともと 1924 年に鉄道の駅として建設されたものであり、店内は 300 の席がある。
- 3) アゼルバイジャンタワー。現在、建設はストップしているが、現在世界で一番高いドバイのバージュ・カリファを抜いて、世界で最も高いタワーとなる見込みの「アゼルバイジャン・タワー」を、人工島であるハザール・アイランドに開業する計画であった。完成すれば高さ 1050m、189 階建てになる予定である。



世界で 2 番目になった国旗



世界一大きいケンタッキー
フライドチキン



アゼルバイジャンタワー

ホテル案内

●HYATT REGENCY BAKU ★★★★★

住所：1033 Izmir St. 電話：012-490-1234

●HILTON BAKU HOTEL ★★★★★

住所：1 Azadliq ave. 電話：012-464-5000

●J.W MARRIOTT BAKU ★★★★★

住所：674 Azadliq square 電話：012-499-8888

●FAIRMONT BAKU ★★★★★

住所：Mehdi Huseyn Street 1A 電話：012-565-4848

●FOUR SEASONS HOTEL BAKU ★★★★★

住所：1 Neftchilar ave. 電話：012-404-2424

●GRAND HOTEL EUROPE ★★★★★

住所：1025/30 Tbilisi Ave. 電話：012-490-7090

●PARK INN RADISSON ★★★★★

住所: 1 Azadliq ave. 電話: 012-490-6000

●CHIRAG PLAZA HOTEL ★★★★★

住所: 49/C Tbilisi ave 電話: 012-499-7200

●GRAND HOTEL ★★★★★

住所: Fuzuli Park, Fuzuli Meydani 電話: 012-595-0081

●QAFQAZ BAKU CITY HOTEL ★★★★★

住所: Tbilisi Ave., 34 電話: 012-404-3160

●CASPIAN PALACE HOTEL ★★★

住所: 44, J. Jabbarli str. 電話: 012-436-7100

レストラン案内

(1) アゼルバイジャン料理

●Karavansaray

住所: Icheri Sheher, 11 Gala St. 電話: 012-492-6668

●Zeytun

住所: Neftchiler Ave. Park Bulvar 4th floor 電話: 012-598-7420

●Shirvansah

住所: 86, Sardar Safarov str. 電話: 012-595-0901

●National Azerbaijan Restaurant

住所: Izmir 5A 電話: 050-210-3708

●Sultan inn

住所: 20, Boyuk Gala street Icheri Sheher 電話: 012-437-2306

●Firuza

住所: 14, T. Aliyarbeyov str. Fountain Square 電話: 012-493-9634

(2) ジョージア, トルコ, ロシア料理

●Imereti(ジョージア料理)

住所: 13 Haqani str. 電話: 012-493-4181

●New Tbilisi(ジョージア料理)

住所: 1013, A. Nashibov str. 電話: 012-596-5204

●Iveria(ジョージア料理)

住所: Inshaatchilar ave. 電話: 012-227-3020

●Anadolu(トルコ料理)

住所: 3/5 Rasul Rza St. 電話: 012-498-1646

●Gunaydin(トルコ料理)

住所: Khatai str., 51 電話: 012-565-2572

●Gorodok(ロシア料理)

住所:245A,A.Shaiqa str. 電話:012-480-2530

●Beryozka(ロシア料理)

住所:Izmir str. 5 電話:012-537-2206

(3) アジア料理

●Maharaja(インド料理)

住所:Sabail,Abdulkarim Alizadeh,6/8 電話:012-492-4334

●Hong Kong(中華料理)

住所:2, B. Bagirova str. 電話:012-436-9750

●Jasmine(中華料理)

住所:Bridge Plaza, 3rd floor, Bakikhanov str. 24 電話:012-404-5404

●The Great Wall/長城飯店 (中華料理)

住所:12, Pushkin str. 電話:012-498-9388

●MADO(日本料理)

住所:Inshaatchilar ave. 33 電話:012-497-55-44/88

●ZAKURA(日本料理)

住所:Alizade str., 9 電話:012-498—1818

●Chio-Chio-san(日本料理)

住所:Shamsi Badalbeyli str. 98 電話:012-498-0272

●Yuka Kaiten Sushi(日本料理)

住所:14,khocali str. 電話:012-489-5582

(4) その他

●Scalini(イタリア料理)

住所:2 Bakikhanov St.(Hyatt の向かい) 電話:012-598-2850

●TOSCA(イタリア料理)

住所:127/1, Neftchiler Ave. 電話:012-404-4800

●L'OLIVA(イタリア料理)

住所:14, Z.A.Tagiyev str. 電話:012-493-0954

●Mezzo(西洋料理)

住所:1033 Izmir St. HyattPark 1 階 電話:012-490-1234

●Churasco Steak House(西洋料理・ステーキ)

住所:14 Hajibeyov St. 電話:012-598-5409

●PAUL'S BAKU(西洋料理・ステーキ)

住所:Rafibayli str. – Zargarpala str 電話:055-520-0092

●Mangal Steak House(西洋料理・ステーキ)

住所:3, M.Mustafayev Str., National Flag Square 電話:012-505-1011

お土産案内

(1) キャビア

アゼルバイジャンで最も人気の高いお土産が、カスピ海産のキャビアである。しかし、近年の密漁禁止政策の一環として、その国外への持ち出しには厳しい制限(1人 125 g まで)が加えられている。キャビアは市内のスーパーマーケットの他、タザ・バザール、空港内免税店で購入可能。なお、キャビアは親魚であるチョウザメの種類によって値段が異なる。1 缶約 110g 入りで 100 マナト程度(約 100 米ドル)が相場。

(2) アゼルバイジャンのお酒

●アゼルバイジャンワイン

アゼルバイジャンの葡萄酒醸造の歴史は紀元前 2 千年から始まったとされており、ワインの発祥の地の一つとも言われ、コーカサス有数の上質なワインの産地として知られている。スーパーやワイナリーなどで購入可能。

有名な銘柄は、ŞƏRQ ULDUZU(シェルグ・ウルドウス)や SAVALAN など。シェルグ・ウルドウスは、日本にも輸出されているワインである。値段は銘柄にもよるが、1 本 10～20 マナト(約 10～20 米ドル)ほど。

●アゼルバイジャンコニャック

コニャックと言えば、アルメニアを想像する方が多いが、アゼルバイジャンのコニャックも絶品である。2014 年のロシア最大食品生産専門展示会 PRODEXPO では、Gold Baku という銘柄が“ベスト・プロダクト・オブ・ザ・イヤー”を受賞した。その他の銘柄としては、フランス語の“Merci Beaucoup(メルシー・ブークー：ありがとうの意)”を振った、Mersi Baku が有名。

(3) アゼルチャイ(アゼルバイジャンのお茶)

少量の濃いお茶をお湯で割って飲むのが、アゼルバイジャン式のチャイの飲み方。食後には必ずと言っていいほどチャイを飲み、半月切りのレモンをチャイに乗せることが特徴である。そんなアゼルバイジャンの国民的な飲み物のチャイは、ティーパック、茶葉の形でスーパーなどで購入することが出来る。また、最近ではお土産用として、乙女の塔の形の入れ物に入った、アゼルチャイの茶葉も売られている。

(4) 民芸品等

絨毯、置物、絹製スカーフなどもお土産に適している。絨毯はテーブルセンター用の小さな物から壁一面に掛けられるような大きなサイズまで、様々な物が売られている。置物は乙女の塔をかたどった物や民族衣装を着た人の模型など、いかにもアゼルバイジャンらしい物が多い。絹はアゼルバイジャン北部シェキ地方の特産品。絹スカーフは綿との合成なら比較的手頃な価格。土産店については下記参照。

【旧市街内】

旧市街内、乙女の塔入り口近くには、出店や主に絨毯を扱う土産物店が並んでいる。これらの店にはティーグラスセット、水差しなどの置物等、細々とした民芸品が売られている。隊商宿を改造したレストラン「ムガムクラブ」の 2 階に入っている店にはスカーフ等布製品の種類が多い。

【噴水広場近く】

噴水広場に数件の土産物を扱う店がある。絵画、置物、バッジ、アクセサリなど、扱う商品は多岐にわたる。ロシアやトルコのお土産に似たものもあり、見ているだけでもおもしろい。露天商は数少ない。

【空港内】

空港の出発ロビー階(2階)には小さな土産物品店があり、絵葉書、人形、木枠付きの小さな絨毯などが売られている。品数はさほど多くないが、店内はこじんまりとよくまとまっている。

【ハイアットホテル内】

ハイアットリージェンシーホテル内、レセプション右手に土産物店がある。店内は狭いが、ガイドブック、雑貨、置物、人形、絵葉書などバラエティーに富んだ商品を扱っており、効率よく買い物ができる。マトリョーシカなど、ロシア風のものも扱っている。

** お土産の持ち出し**

絨毯、絵画、民芸品などで骨董品的価値のある物品及び楽器(骨董品であるか否かを問わず)をアゼルバイジャン国外へ持ち出す際には指定機関発行の証明書が必要。国外へ持ち出す品物を下記指定機関へ直接持っていく、証明書を発行してもらう。なお、証明書の発行には数日を要するので注意が必要。

○絨毯: 絨毯博物館 住所: Mikayil Useynov 28
Tel: 012-497-20-57

○民芸品・楽器: 絨毯と民族工芸博物館 住所: 123a Neftchilyar Ave.
Tel: 012-498-69-72 / 598- 44-79

○絵画: 国立美術館 住所: Niyazi St., 9/11
Tel: 012-492-57-11

注意事項

(1)税関申告

16歳以上の出入国者は旅券の種類に関わらず、1,000米ドル以上の現金、貴金属、精密機器等申告すべき物品を所持して空路にて入国する場合は、預け荷物受取り所に設置されている端末(E-Custom)にて税関申告書を作成する義務がある。端末にて作成した申告書は印刷されるので、その申告書を税関職員に提出。職員は証明書を発給。証明書は出国時に必要となるので、紛失しないように注意すること。空路にて出国する時は、税関検査場近くに設置されている端末(E-Custom)にて同上の税関申告書を再び作成し、入国時に受領した証明書と一緒に税関へ提出する。

現金の持ち込みに制限はない。但し、1万米ドル以上の持ち込みをする場合は、英文での銀行からの出金証明を提出しなければならない。出国時に持ち出せる金額は、入国時に申告した額までである。入国時に1万米ドル以上持ち込んだ場合でも、出国時は1万米ドルまでしか持ち出せない。残金を持ち出そうとする場合は、銀行から送金すること。

なお、出国する際に、入国時に発給された証明書がない場合は、1,000米ドルまでしか持ち出せない。

(2)治安

バクーの治安は比較的良いが、夜間、特に人通りの少ない地域の一人歩き等を避けることは言うまでもない。また、バザールや地下鉄といった場所ではスリ、置き引きが多発しているため常にそれらを念頭に置いた行動が求められる。

犯罪の他、日本人が野犬に噛まれるといった被害が報告されている。当地では飼い犬の多くも予防接種を受けていないため、野犬のみならず飼い犬にもむやみに近づかない方がよい。

(3)交通マナー

バクーの交通マナーはお世辞にもよいとはいえず、信号無視、無理な追い越し、道路の逆走などは日常茶飯事である。横断歩道がほとんどなく、道路を横断する際は常に危険が伴うため、十分な注意が必要(自動車が右側通行であることにも要注意)。また車を運転する際は、道路の陥没、歩行者の急な飛び出し(街灯が少ないため夜間は特に注意が必要)、先行車、後続車の急な車線変更等に気を付ける必要がある。

(4)写真

建物では、大統領府をはじめとする政府関係及び軍関係の建物(ガバラの旧ロシア軍施設も含む)の近くからの撮影は禁じられており、地下鉄構内等での撮影は許可が必要である。石油関連施設・設備などは禁止されている。また、女性に限らず人物を撮影する際も、一言断ってから行うように心掛けたい。

(5)緊急時の連絡先

緊急時の連絡先は下記のとおり。

消防署 : 101 警察署 : 102 救急車 : 103
SOS病院(代表) : +994-12-493-73-54 / 493-40-89
SOS病院(携帯) : +994-50-212-6921

在アゼルバイジャン日本国大使館
Embassy of Japan in Azerbaijan
Hyatt Tower III, 6th floor, Izmir str., 1033
az1065, Baku, Azerbaijan
週休日 土曜・日曜
開館時間 9:00—17:45
(13:00—14:00 昼休み)
電話:+994-12-490-78-18 or 19
FAX:+994-12-490-78-17 or 20
休日・夜間緊急用連絡先:+994-50-222-8063

【お願い】

本案内は私的利用の範囲で利用し、無断転載・複製等のご遠慮下さい。
また、内容に関し誤記があった場合、または追加すべき事項がある場合は、
在アゼルバイジャン日本国大使館までご連絡下さいますよう、宜しくお願い致します。